

都市再生整備計画 事後評価シート
中央公園周辺地区

平成23年3月

福岡県 北九州市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	北九州市	地区名	中央公園周辺地区			面積	376ha
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	1,719百万円	国費率	0.4		

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名							
	基幹事業		道路(曾根鞘ヶ谷線舗装補修、高見1号線歩道設置、井堀3号線道路景観整備)公園(中央公園、福祉公園、祝町一丁目西公園、到津の森公園)							
	提案事業		地域創造支援(到津の森公園動物展示施設整備、到津の森公園環境学習、到津の森公園他市動物園ライブ映像配信)							
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			道路(八王子2号線外歩道改良)		地元地権者との交渉が難航しており、事業着手の目的が立たないことから取りやめる。		施設利用者数増加の指標への影響は間接的であり、数値目標への影響は少ないため据え置く。			
			公園(中央公園安全安心対策)		他の補助制度を活用して、本公園の安全安心対策を実施しているため、取りやめる。		施設利用者数増加の指標への影響は間接的であり、数値目標への影響は少ないため据え置く。			
新たに追加した事業		提案事業		公園(大蔵公園整備)		隣接する道路の拡幅事業により、道路事業の機能補償として公園の改修を行うため削除する。			施設利用者数増加の指標への影響は間接的であり、数値目標への影響は少ないため据え置く。	
		基幹事業		道路(東鞘ヶ谷町2号線橋梁補修、大蔵到津線舗装補修、榎田昭和1号線舗装補修、八王寺町2号線道路補修、高見3号線橋梁補修、西鞘ヶ谷町7号線災害防除、高見21号線歩道改良、西鞘ヶ谷町21号線歩道改良)		本地区内の道路舗装、橋梁の老朽化による劣化、法面の亀裂、歩行者の安全確保のため、追加した。		施設利用者数増加の指標への影響は間接的であり、数値目標への影響は少ないため据え置く。		
				公園(美術の森公園・中央緑地)		本地区内の西エリアからのアクセスを良好にして、豊かな自然環境を感じながら健康づくりの場となる公園として、更なる魅力向上を目指して新たに追加した。		施設利用者数増加の指標への影響は間接的であり、数値目標への影響は少ないため据え置く。		
提案事業		地域生活基盤施設(美術の森公園・中央緑地サイン整備)		本地区内の西エリアからのアクセスを良好にして、豊かな自然環境を感じながらウォーキングなどの健康づくりの場など、更なる魅力向上を目指して新たに追加した。		施設利用者数増加の指標への影響は間接的であり、数値目標への影響は少ないため据え置く。				
提案事業		事業活用調査(事後評価調査)		本地区における都市再生整備計画が最終年度を迎え、まちづくり目標に対しての達成状況及び効果発現の要因を整理して今後の計画を立てるにあたっての検討等を行うため、事業を追加した。		影響なし				
交付期間の変更		当初	平成18年度～平成22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						
変更										

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	環境学習事業に対する参加	百人/年	0	H16	20	H22	-	30.1		あり なし	到津の森公園の施設整備や、市内5施設が連携した環境学習のシステムが構築されたことが、環境学習事業に対する参加者数の増加に寄与した。	H23.4
指標2	施設利用者数の増加	万人/年	34	H16	38	H22	-	39.2		あり なし	到津の森公園の施設整備により魅力が向上し施設利用者数が増加した。また、間接的ではあるが、公園や施設を結ぶ道路の舗装打ち換え、歩道設置、橋梁補修などの整備が到津の森公園の施設利用者数の増加に寄与した。	H23.4
指標3	市民の満足度調査	%	39	H17	50	H22	-	41.0		あり なし	園内休憩施設、ふれあいゾーンの整備、環境学習事業などの実施により、満足度のうち動物の展示方法等については、従前より改善し事業の効果があったが、レストラン・休憩所等が従前より落ちてしまい目標値まで達しなかった。	H23.12

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値		目標値		数値		目標達成度 ¹	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	到津の森公園に関する満足度調査	%	-	-			-	99.6			到津の森公園のふれあいゾーンを整備したことにより、自然や動物とのふれあいの場が充実し、以前のふれあいゾーンと比較した満足度の向上に大きく寄与した。	-
その他の数値指標2	福祉公園の利用者数	百人/年	96.6	H17			-	160.1			身体障害者と健常者が共に使える休憩所や複合遊具及び健康遊具を充実し、また明るく見通しの良い空間としたことにより、子供の遊びや散策時の休憩等、公園利用の幅が広がり、利用者数の増加に寄与した。	H23.5

4) 定性的な効果発現状況

・到津の森公園について、以前に比べて、動物とのふれあいの場があり、親しみやすくなっており、楽しかった。子どもの目線で動物が見られることや園内でもきれいに整備されており、とても良いという意見が利用者からあがっている。

・福祉公園について、整備前は施設も老朽化し、暗く場所もわかりづらいといった状況であったが、整備後は、中央公園の恵まれた緑空間に囲まれた明るい空間となった。舗装が外周園路(ゴム舗装/赤)、休憩広場(インターロッキング/茶・黄色)、主要幹線園路・広場(アスファルト舗装/黒色)で機能・空間を整理され利用しやすい。公園灯が計画的に配置され、光を遮断する工作物が少なく、明るく防犯上も適正な環境を整えているといった言われる声があがっている。また、整備前は、子供が遊べるような遊具がなかったが、複合遊具や健康遊具が新たに整備され、近隣保育所からも子供たちが遊びにくるなど、公園利用者の幅が広がっている。

・環境学習プログラムについて、アンケートを取り、良かった点として、到津での活動が充実していた、校区では出来ない川での体験が出来た。到津の森公園も水環境館も実際に動物や魚を見ながら、タイミングよく説明してもらったので良かった。子供達が積極的に活動することが出来る内容だった。モルモットの心音を聞いたり、ヤギの出産シーンのビデオ鑑賞で生命を実感できるなどの工夫が良かった。生き生きとした動物を見ることができた。目の前でライオンやサルなどが餌を食べている様子を見ることが出来、子供達が大喜びだった等々の意見が上がってきており、悪かった点については、なしとなっており、環境学習が快く受け入れられていることが伺える。

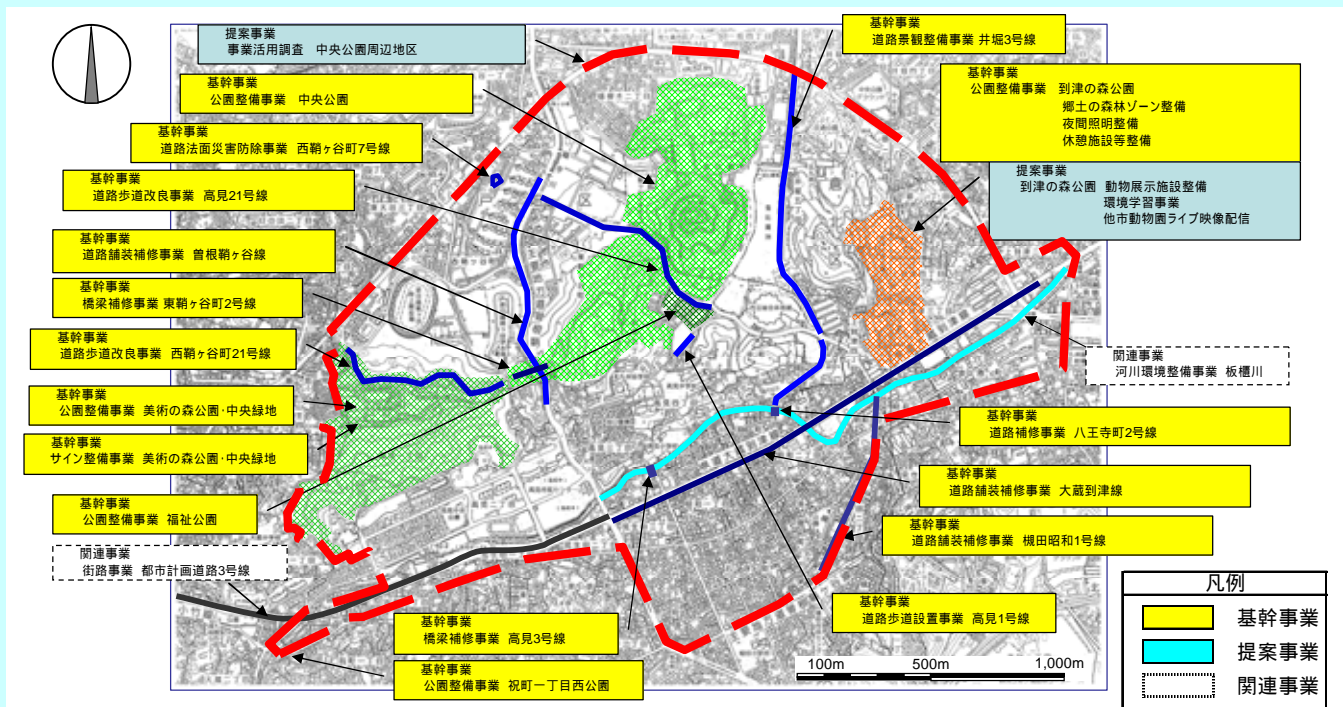
5) 実施過程の評価	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
		都市再生整備計画に記載した	実施できた	
モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載した	-	-
住民参加プロセス	障害者団体との協議	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施できた	-	-
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-	-
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-	-
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	-
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	-	-
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-	-

今回得られた意見を他の公園整備の参考としていく。

様式2 - 2 地区の概要

中央公園周辺地区(福岡県北九州市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 北九州市の教育・文化・スポーツの中核地としての機能の充実を図り、市民がより自然に親しみ、健康で文化的な生活を営むことのできる環境づくりを目指す。 目標1 自然や動物とのふれあいの場の充実を図り、自然保護や環境保全意識の高揚を図る。 目標2 多くの市民が集まり、自然や文化にふれ、スポーツに親しむことのできる憩いと安らぎの場を創出する。 目標3 市民福祉の向上を目指し、健康者や障害者がともに安全・安心にくつろげる空間づくりを目指す。	環境学習事業に対する参加	単位: 百人/年	0 H16	20 H22	30.1 H21
	施設利用者数の増加	単位: 万人/年	34 H16	38 H22	39.2 H21
	市民の満足度調査	単位: %	39 H17	50 H22	41.0 H22



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 福祉公園は視覚障害者に重点を置いた公園として、障害者等の団体との協議を行いながら、より幅広い利用も見込めるよう整備することで、健康者や障害者が共にくつろぐ場となった。 到津の森公園は、老朽化した施設を更新し、新たな動物展示方法等で入園者数の増加に繋がった。 東朝ヶ谷町2号線橋梁は補修工事により、中央公園に接続する本路線の安全性が高まった。 高見1号線は歩道整備により、歩車分離が実現し、安全で快適な歩行空間が確保された。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 教育・文化・スポーツの中核地としてより充実するため、地区内の回遊性の向上や情報発信を検討する。 到津の森公園の施設利用者数やリピーターの増加を図るため、新規動物の導入や展示工夫、休憩施設の充実及び催しやサービス等の充実を検討する。 環境意識高揚のため、更に充実した内容の環境学習の機会を提供できるような整備の検討を行うとともに、継続的に環境学習事業を行っていく。 公園や施設を結ぶ道路や橋梁の安全性を持続させるため、維持・管理を行っていく。